

AIT海外研修に参加して

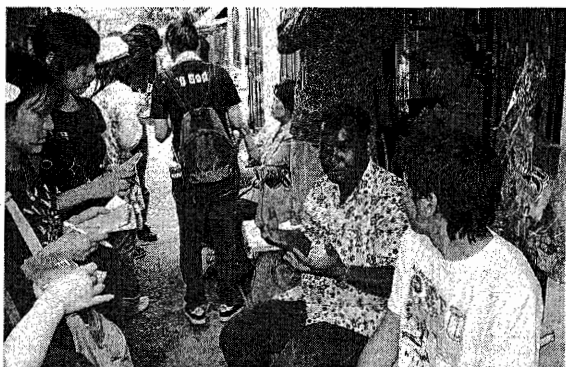
国際地域学部国際地域学科2年

中尾 乃絵

田園の学舎まなびや ●●● 東洋大板倉キャンパス 発

～第3部XVII

東洋大学国際地域学部では、2000年からタイのアジア工科大学院 (Asian Institute of Technology 以下AIT) でワークショップを行ってまいす。第9回となる今回は、2月25日から3月10日までの約2週間に行われました。引率教員1人、大学院生2人、学部生17人の計20人が参加。全員がAIT内にある宿泊施設に泊りました。この大学にはアジア各国から多くの学生が訪れていす。広大な敷地にはパン屋、本屋、タイ料理屋、スポーツジムなどがあり、日常生活に不便はありません。



貯蓄活動のリーダーの家で(左から3番目、中尾さん)

貯蓄活動のリーダーの家で(左から3番目、中尾さん)

スラムの住環境調査 住民全体で問題打開

(National Housing Authority 以下NHA) が、スラムに住む住人々の住宅建設を支援しては、住民自身が住宅建設にかか

タイの都市は急成長しています。その一方で、貧しい人たちが集まって暮らすスラムが高層ビルの谷間に点在し、大きな問題となつていす。その現状を住民がどのように打開しようとしているのか、実際に見てきました。

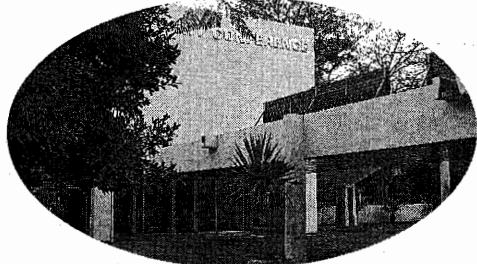
住人々の住宅建設を支援しては、住民自身が住宅建設にかか

DIがサポートしてくれることですが、NHAと大きな違いは、住民自身が住宅建設にかか

住民全体で問題打開

DIがサポートしてくれることですが、NHAと大きな違いは、住民自身が住宅建設にかか

DIがサポートしてくれることですが、NHAと大きな違いは、住民自身が住宅建設にかか



AIT内の宿泊施設



バン・ブーア地区の様子

今回のワークショップの目的は、スラムの住環境整備に関するフィールドワークです。現在

わたることができ、計画段階から技術支援、そして評価までCO

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

わたることができ、計画段階から技術支援、そして評価までCO

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

わたることができ、計画段階から技術支援、そして評価までCO

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

わたることができ、計画段階から技術支援、そして評価までCO

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

わたることができ、計画段階から技術支援、そして評価までCO

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

わたることができ、計画段階から技術支援、そして評価までCO

わたることができ、計画段階から技術支援、そして評価までCO

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

わたることができ、計画段階から技術支援、そして評価までCO

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

わたることができ、計画段階から技術支援、そして評価までCO

CODIの支援を受けるコミュニティの事例として、私たちはバンコク北部のバン・ブーア (Bang Bua) 地区で調査を行いました。この地区には約900人が住んでおり、運河に面した家が多く存在しま

答えてくれました。とても人々から頼られているようで、インタビューしている間に、何回も携帯電話が鳴りました。コミュニティの住民は皆温かく、私たちがあいさつすると必ず返してくれます。お互いに助け合って住宅建設をしていたり、新しい家ができた人が近所の人を集めてパーティーをしていたり、まるで大きな家族のようでした。「近所」の温かさが、そこにはあったように思います。

タイは私が想像する以上に、住民参加型のコミュニティ開発が盛んでした。住民全体で環境問題について考えています。住民一人一人が自分たちの活動についてきちんと理解しています。フィールドワークは丸2日と少し短い期間でしたが、暑い中コミュニティ内を歩き回り、スラム地域を肌で感じる事ができたのは、自分にとっていい経験でした。

そして、フィールドワークをした後のプレゼンテーション作りが大変なことも、初めて知りました。収集した情報を整理し、パソコンで資料を作りあげ、さらに英語で発表原稿を書くには、かなりの時間を必要とします。発表前日は、ほとんどのグループが夜中の2時まで準備をしていました。この大変さも含めて、フィールドワークの重要性について理解できました。

この2週間は、あっという間に過ぎていったように思えます。それぐらい濃く、思い出深いものとなりました。フィールドワーク以外にも、初めて出会った学生と仲良くなったこと、タイ料理が辛かったこと、ゾウに乗れたことなど、さまざまに初めての経験がありました。このプログラムに参加できたことを幸せに思います。